

遺跡への

眼差し

—きのくに考古学研究の120年史—

こうこがくけんきゅう

ねんし

【岩橋千塚古墳群の
調査風景①(大正期)】

120 Years of Kinokuni Archaeological Research

令和5年

1月21日(土) ▶ 2月26日(日)

【開館時間】 9:00 ~ 16:30 (入館は 16:00 まで)

【休館日】 毎週月曜日

【入館料】 一般 190 円 (150 円)、大学生 90 円 (70 円)

() 内は 20 名以上の団体料金

※高校生以下、65 歳以上、障害者及び県内在住の留学生の方は無料
(証明書の提示が必要)

和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋 1411

TEL 073-471-6123 FAX 073-471-6120

HP/ www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp

Email/ kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp

【岩橋千塚古墳群の
調査風景②(昭和期)】

日本における近代考古学のはじまりは、明治10(1877)年のエドワード・モースによる大森貝塚(東京都)の調査とされます。以後、令和の時代まで多くの遺跡の発掘調査・研究が進められ、多くの成果をあげてきました。

和歌山県では、比較的早くから近代的方法による遺跡の分布調査や発掘調査が行われてきました。紀北の岩橋千塚古墳群(和歌山市)は、明治40(1907)年の大野雲外氏による調査や大正期の第一期多くの調査を経て、昭和6(1931)年に史跡に、昭和27(1952)年には特別史跡に指定されました。その後古墳の乱掘や破壊の危機に直面しましたが、保存活動により遺跡の保護が図られ、現在に至っています。

紀中・紀南でも、早くは大正期から在野の研究者による精力的な遺跡の踏査(とうさ)、発掘調査が行われました。こうした活動により、高山寺貝塚(田辺市)など重要な遺跡が明らかとなり、和歌山県ひいては全国の考古学研究をけん引する成果を上げました。

今回の企画展では、考古資料、調査図面・日誌類、記録映像を交えながら遺跡の調査と保存に情熱を注いだ人々の活動を通じ、和歌山県における考古学研究と遺跡保護の歴史を紹介します。



鳴神(鳴神埴輪窯)出土
馬形埴輪
(当館蔵)



伝岩橋千塚古墳群出土
馬具・杏葉(ぎょうよう)
(当館蔵)

おもな展示物

- ・伝岩橋千塚古墳群(和歌山市) 蓋形埴輪、五鈴鏡(個人蔵)
- ・伝岩橋千塚古墳群(和歌山市) 円筒埴輪(和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵)
- ・陵山古墳(橋本市) 須恵器、土師器(橋本市教育委員会蔵)
- ・丸山古墳(紀の川市) 玉類、琴柱形石製品(高山寺蔵、和歌山県立博物館寄託)
- ・高山寺貝塚(田辺市) 縄文土器、貝類(高山寺蔵、和歌山県立博物館寄託)
- ・崎山14号墳(印南町) 調査日誌、実測図(御坊市教育委員会蔵)
- ・南紀考古学同好会 調査記録映像(御坊市教育委員会蔵)
- ・浦宏考古日誌(高山寺蔵、和歌山県立博物館寄託) ほか

関連イベント

展示講座③ 冬期企画展

令和5年2月12日(日)
13:30 ~ 15:30

対象：小学生以上

定員：30名(先着順)

参加方法：1/27(金)13:00 ~ 電話予約

参加費：入館料+資料代



伝岩橋千塚古墳群出土
須恵器装飾付壺
(個人蔵)



伝岩橋千塚古墳群出土
石見型埴輪
(和歌山大学紀州経済史文化史研究所)